

日本本土復帰40年展開催中

日 6月27日(水)まで
10時~19時*木曜日休館
場 那覇市歴史博物館
費 観覧料(一般300円)
問 869-5266

復帰40年展ギャラリー 歴史文化講座

日 5月9日~6月6日の
毎週水曜日(計5回)18時半
~20時

場 那覇市歴史博物館

定 60人

費 観覧料(一般300円)

申 要予約 問869-5266

内 第1回「復帰運動とは何

で/あったか/」第2回「島

ぐるみ土地闘争/」第3回

「沖縄問題前史から返還

運動まで/」第4回「沖縄

経済一復帰の前と後-」

/第5回「豆腐から見た

沖縄「復帰」

1972(昭和47)年5月15日、沖縄は27年間に及んだ米軍統治
下から、祖国日本へ復帰しました。

あれから40年。通貨交換や交通方法の変更など激動の時代
を乗り越えてきました。

復帰40周年を迎える今年、街並みの移り変わりや歴史を、
あなたの思い出と共に振り返ってみませんか。



あれから40年

あの頃あの場所あの人



左側通行。建物もすっかり変わりました。

国際通り(久茂地向け)。車両は右側通行。

あの頃は10才



40年前

古蔵自治会長 檜山 弘子さん(50歳)

あの頃古蔵周辺は商店街で、子どもが多く、とても賑わっていました。米軍の住むアパートやよく利用するホテルが近くにあり、外人の友達もいました。ジュースが1瓶10セント程で、よく小遣いを持って駄菓子屋や文具店に行ったり、空き地で遊んだりしていました。

学校では、「方言札」というのがありました。方言を一言でも話すとバツとして首に札をかけられたんですよ。

現在

NPO法人前島アートセンター

宮城 潤さん(39歳)

復帰っ子です。復帰から4か月後に生まれましたので、当然、当時の記憶はありません。先輩方から話を聞いたり、本や写真で当時を知るのですが、世の中を揺り動かす力強さを感じます。今、地域づくりに関わっていますが、あの頃に負けないように、復帰っ子のパワーで、逞しく歩んでいきたいと思っています。



あの頃誕生



那覇市シルバー人材センター理事長

名嘉元 甚勝さん(71歳)

復帰の日、市では、午前零時に合わせて「復帰議会」が開催されました。「祖国復帰宣言決議」が全会一致で可決されたのを、私は議会事務局の職員として立ち会うことができました。厳粛な雰囲気の中で迎えた歴史的瞬間は何とも言えない程の感動でした。夜が明けると、世の中が一変したように感じたのを今でも鮮明に覚えています。

その後は本当に激動の時代で、とにかく忙しく、賑やかでした。そんな時代を乗り越え、那覇市は素晴らしく発展したと思います。これから先も楽しみです。



新都心地区一帯は、米軍の「牧港住宅地区」でした

賑やかな街に変わりました



広い敷地に米軍のガソリンタンクが並んでいました

住宅地になりました



工事中の那覇大橋(奥はガーナムイ)

モノレールも走るようになりました

協力依頼：写真提供(豊島貞夫さん、田野多榮一さん)



ちなみに市長の40年...



21才



那覇市長になりました。

市長のコメント

復帰前後は、東京で大学生生活を送っていました。生活費としてドルを円に両替して持参しましたが、見慣れない円は、なんだかオモチャのようで、違和感があったことを覚えています。また、上京時はパスポートを手にしての渡航でしたが、卒業し帰郷する際には、それが不要となったことで、日本復帰を実感することになりました。